

# 図書館だより

## 目次

ニーチェ文書館	——西山 力也	1
L. カッソン著・新海邦治訳 『図書館の誕生 —古代オリエントからローマへ—』の紹介	——岩村 麻子	2
日本女子大学図書館友の会第42回・ 平成19年度総会開催される	——中澤 恵子	3
大学院生・教職員向け図書館アンケート実施報告	——鈴木 学	4
西生田図書館玄関ホール展示について	——濱口 都紀	12
ご存知ですか？ブラウジングコーナー		12



## ニーチェ文書館

西山 力也

ゲーテ以来、チューリンゲンの小邑ヴァイマルには多くの文人武人が来訪、その足跡を遺している。1844年隣州ザクセンに生まれたニーチェも、弱冠24歳で大学教授となり数々の西欧文化批判の書で偉才を示した後、1897年から1900年までの最晩年を同市で過ごす。もっとも1889年以来すでに精神錯乱にあった彼が自ら望んだのではない。妹エリーザベト・フェルスター＝ニーチェが1894年ナウムブルクにニーチェ文書館（Nietzsche-Archiv）を創設、全著作権を獲得すると、96年同館をヴァイマルに移設、翌年後援者メータ・フォン・ザーリス提供のジルバブリック館（現フンボルト通り36番地）に狂人の兄を連れて転居するのである。ここで彼女を中心にして遺稿の収集・保存・編纂が進められ、1899年から1913年にかけて問題をはらんだ全集（20巻）が出版される。妹の功績は大。だが、原稿の改竄や兄の思想の国粹的主義的・軍国主義的な歪曲の非は否定できない。その後、第1次大戦敗北後の1919年ヴァイマル共和国成立の地となる同市は、同時にナチスにとっても政治的・思想的に重要な拠点となる。ムッソリーニやヒトラーを熱狂的に崇拝する妹エリーザベトは格好の広告塔、こうして同館はいかがわしいニーチェ崇拜やナチズム信仰の巣窟と化す。26年ヴァイマルはナチスの第2回党大会の開催地となり、大管区の主都となる。ヒトラーは気に入って40回以上も滞在、定宿ホテル・エレファントのバルコニーに腹心ヒムラーやザウケルを従えて現われ、熱狂する群衆に應えるのであった。かくして、32年チューリンゲン州議会でナチス政権誕生、36年ブーヘンヴァルト強制収容所の開設と、文化都市ヴァイマルもやすやすとナチスの魔手に落ちてゆく。やがて第2次大戦の敗北、ヴァイマルはソビエト軍占領地区となり、45年末ニーチェ文書館は閉鎖、49年同館の所蔵原稿と文書館機能はそっくりゲーテ＝シラー文書館に移される。

市の南、街を見下ろす高台に建つニーチェ文書館。1990年に再開館、看板とは違い今は記念館なのだが、96年、私は在外研修のさい、ヴァイマル・ゲーテ協会の配慮で同館正面2階の部屋に2ヶ月住まわせてもらった。小ぶりな外観の割に多い部屋数、1階がヴァン・ド・ヴェルドによりユーゲント様式に改装された図書室を含む記念ホール、2階がゲスト・ルームになっていて、その一つはニーチェ臨終の部屋でもあった。台所、食堂、風呂などは半地下に、最上階には管理人夫婦が住んでいた。短期滞在の研究者がたえず入れ替わり、一人きりになることもある。そんな心細い夜な夜な、私は死の床のニーチェ、彼の苦しみや悲しみに思いを馳せる一方、頭にこびりついたあの異様な形相のデスマスクを振り払おうと何回も寝返りを打つのであった。（図書館長・史学科教授）

L. カッソン著・新海邦治訳

## 『図書館の誕生 ―古代オリエントからローマへ―』の紹介

岩村 麻子

本書の訳者である新海邦治先生（日本女子大学名誉教授）は、2006年3月まで37年にわたって本学で教鞭をとられ、2003年からご退職までの3年間は図書館長も兼務された。図書館長として先生がこの『図書館だより』に寄せられていた巻頭言では、ギリシア・ローマ世界における図書館の状況や人々の読書事情について、毎号興味深いエピソードが語られ、楽しみに読んでおられた方も多いいことと思う。本書は、先生がその巻頭言執筆の際に参照されたという文献の翻訳になる。古代の図書館や書物に関する豊富な事例の紹介と詳細な分析が、先生の端正にして明快な訳文で綴られており、こうした分野に造詣の深い方の関心に十分応えるであろうことは勿論、私を含めた専門外の読者にとっても、古代世界の新たな一面を知ることのできる、貴重な書となっている。

本書では、古代メソポタミアにおける粘土板の収蔵庫から、中世イタリアの修道院内に設けられた図書館まで、およそ4000年の間に図書館がたどった発達の過程が描き出される。原著者カッソンは、戯曲や書簡を含む古代のさまざまな文献、また石碑に残された銘文などを丹念に読み解いて、図書館の様子や書物の内容に関する豊富な情報を提供するのと同時に、遺跡からの出土品や建築物の遺構といった考古学的資料を用いて、視覚的なイメージも巧みに喚起する。私たちは本書を通じて、西アジアの王宮の小さな書庫の中、粘土板を読みながら業務上の調べものをする書記官や、女神アテナの像が鎮座しますベルガモンの図書館で羊皮紙の巻物をひもとく学者たち、あるいはローマの公衆浴場内に設けられた図書館で湯上がりに古典文学を読みふける市民の姿を、ありありと思い浮かべることができる。また、その時々図書館を取り巻いていた政治や文化、教育の状況についても丁寧に説明されており、独特な切り口の西洋古代史案内としても楽しめる。さらに、図書館の所蔵品である書物の形態や、書物の流通方法の変遷に関する記述もたいへん興味深い。たとえば、書物がそれまでの巻物から現在のような綴じ本の形式に変わったことは、保存や携帯の上で大いに便利になっただけでなく、両手を使ってゆっくりと巻きをほどこき続けるという作業から読者を解放し、目的の箇所を見つけやすさ、読書中のメモの取りやすさを劇的に高めて、カッソンの言葉によれば「ゼロックス複写機導入の影響に匹敵」するほど、研究効率の向上に貢献したとされる。読書習慣や学問研究という人間の営みの歴史を探る上でも、本書からは多くの有益な示唆を得られるだろう。

つまるところ、図書館に進歩をもたらしたのは、知識の獲得と蓄積、さらにその活用に向けられた、人々の情熱に他ならない。本書の精緻な記述が明らかにするのは、自分のため、あるいは自分の属する社会のため、いかにして知識を身につけ、かつそれを実際に役立てるかという課題へ、懸命に取り組んだ人々の姿である。今日私たちは、古代の人々とは比較にならぬほどの膨大な資料をやすやすと入手することができ、記録手段の発達によって、それらの資料に記された情報を山のよう蓄えることも容易になったが、そうした情報群から必要な知識を確実に獲得し、かつそれを適切に用いることの難しさにも直面している。それだけに、本書が伝える先人たちの努力の軌跡は、読む人すべての心中にある種の共感を呼び起こし、また深い感銘を与えるものと思われる。

ところで、私が大学院時代に履修していた新海先生の授業は、先生の個人研究室で行われていたのだが、授業の流れの中で、机に出していない資料を参照する必要が急に生じても、先生は決して「あれはどこに置いたか」と探したりなさらず、壁面を埋める書架から、いつもずっと当該の資料を取り出され、そのとき論じられている問題について、いっそう詳しい解説をしてくださった。知識も、知識の源である書物も、ただ蓄えられるだけでは意味がなく、それをいつでも、そして適切な形で活用できるように整えられてこそ真価を発揮するということを、先生は日ごろのお姿でも示して下さいましたのだと、本書を読んで改めて思い返している。 （文化学科助手）

\* 目白・西生田所蔵 請求記号010.2-Cas

## 日本女子大学図書館友の会第42回・平成19年度総会開催される

図書館友の会は、本大学の関係者が手をつなぎ、大学の中心となる図書館の充実発展をはかりつつ会員のために文化活動を行おうとするものでございます。欧米では、この組織が図書館ひいては大学そのものの前進に大きな力となっております。日本では新しい企画ともいふべきこの会を、是非とも立派に育成したいと念願しております。（「日本女子大学図書館友の会設立の趣意」抜粋）

冒頭の趣意書を以って第6代学長上代タノ先生が学内・外に広く呼びかけ、創立してから42年。5月16日（水）午後、目白キャンパス百年館504会議室で、図書館友の会第42回・平成19年度総会が開催された。友の会会長である後藤祥子学長、続いて西山力也図書館長より挨拶があり、議事にはいった。平成18年度事業報告の上代タノ平和文庫報告では、1971年に上代先生が「女性が国際平和の問題について問題意識を明確に持ち、平和への推進力となることを念願して」846冊を本学図書館にご寄贈以来継続収集され、蔵書数は7,384冊に達したこと、また、先生の収集された新聞・雑誌の切抜き、手書きで写したもの等原稿の整理を行なったことが報告された。卒業生調査報告では、現在に至るまでの経過、『日本女子大学卒業生著者目録』1981年刊の追補XIを本日配布するとの報告があった。平成18年度収支決算報告、監査報告、引き続き平成19年度事業計画案、予算案の説明があり、いずれも拍手をもって承認された。議事終了後、中曽根情報サービス課長より平成18年度図書館報告があった。休憩・歓談の後、桜楓会出版事業スタッフ、齊藤令子氏の講演会「女性ジャーナルの先駆けー機関紙『家庭週報』年表」



挨拶をされる後藤祥子学長

製作こぼれ話が開催された。「日本女子大学平塚らいてう研究会」の活動から「『家庭週報』の手引きとなるものを、自分たちの手で作ろう」ということになった経緯に始まり、基本的編集方針「担当者の意思を尊重しつつ、内容に過不足があれば話し合っ調整していく」「若い人でも読めるように考慮する」に沿うための苦労話についてはとても興味深く、また、あえて『』で『家庭週報』と括ったその思いの強さに感銘を受けた。講演の熱冷めやらぬ中、本年度総会は終了した。



講演会 講師齊藤令子氏

### 日本女子大学図書館友の会

上代タノ先生は1949年に大学行政及び図書館視察のため渡米した際、スミスカレッジにおいて活動していた“Friends of the Smith College Library”の存在を知り、その「図書館友の会」の精神と見事な運営ぶりに強く心を動かされた。1956年本学学長に就任、大学創立60周年記念事業として新図書館を建設した翌1965年、本学図書館を支持し、応援するために「図書館友の会」の設立を提唱、創立された。

具体的な活動としては「日本女子大学図書館の参考図書購入の補助」「上代タノ平和文庫の選書及び収書、管理、運営の補助」「学園関係資料収集、整理補助」「卒業生著者調査及目録作成」「各種講座、読書会開催」「文学館、文庫、美術館、図書館等見学、文学散歩など」「会報（年3回）及び会員名簿発行」があげられる。

\* 図書館友の会事務室：目白の図書館5階。入会等お問い合わせは電話03-5981-3183（月～金 10～16時）

<http://www.jwu.ac.jp/news/006.html>

（館員・西生田図書館 中澤恵子）

## 大学院生・教職員向け図書館アンケート実施報告

図書館では、平成18年秋の学部学生向け調査の後、大学院生及び教職員に対してもアンケート調査を実施した。前号に続いてその報告をする。目白・西生田両キャンパスで302枚回収することができた(表1)。以下A～Lの12項目についてアンケートをとった。なお大学院生向けと教職員向けとは一部設問が異なっている。

目白・西生田合計		
目白・大学院生	83	103
西生田・大学院生	20	
目白・教職員	126	199
西生田・教職員	73	
合計	302	

表1 アンケート回収数の内訳

### アンケートの設問

- A. 図書館の利用カードを持っていますか？  
 1. はい 2. いいえ
- B. あなたが主に利用するのは  
 1. 目白図書館 2. 西生田図書館 3. どちらも同じぐらい
- C. 大学図書館をどのぐらいの頻度で利用していますか。  
 1. 毎日 2. 週3～4回 3. 週1～2回 4. 月2～3回 5. 試験期間のみ  
 6. 月1回以下・使わない(質問Dにお答えください)
- D. 質問Cで6と答えた方にお尋ねします。その主な理由は何ですか。  
 1. 必要な資料は購入している 2. 公共図書館などを利用している  
 3. インターネットで情報を入手している 4. 利用しなくても支障がない  
 5. 利用したい資料がない 6. 利用の方法がわからない 7. その他
- E. よく利用される時間帯に○をつけてください。(複数回答可)  
 1. 開館～11:00 2. 11:00～14:00 3. 14:00～17:00 4. 17:00～閉館まで
- F. 次の図書館サービスを利用したことがありますか。

#### 大学院生向けの設問

- ア) 図書・雑誌の館内閲覧  
 イ) 図書の貸出  
 ウ) 図書の予約  
 エ) 雑誌の貸出  
 (翌開館日の開館時刻まで)  
 オ) 図書・雑誌の複写  
 カ) 目白または西生田からの資料取り寄せ  
 キ) オンラインデータベースの検索  
 ク) 他大学・機関からの現物・複写取り寄せ  
 ケ) 他大学への紹介状の発行  
 コ) ガイダンス・講習会への参加  
 サ) 購入希望図書申し込み  
 シ) ビデオ他AVブースの利用  
 ス) 共同研究室(グループ研究室)・個人研究室の利用

#### 教職員向けの設問

- ア) 図書の貸出  
 イ) 雑誌の貸出  
 ウ) 図書の予約  
 エ) 図書・雑誌の複写  
 オ) 目白または西生田からの資料取り寄せ  
 カ) オンラインデータベースの検索  
 キ) 他大学・機関からの現物・複写取り寄せ  
 ク) 他大学への紹介状の発行  
 ケ) ガイダンス・講習会への参加・実施申し込み  
 コ) 購入希望図書申し込み  
 サ) 指定図書制度  
 シ) ビデオ他AVブースの利用  
 ス) 共同研究室(グループ研究室)・個人研究室の利用  
 セ) 「ご意見箱」への投書

- セ) 持込PC (コンピ-ル-用) 個人  
所有) の利用  
ソ) 「ご意見箱」 への投書  
(選択肢)

1. ある 2. ない 3. 知らなかった

- G. 図書館以外の場所から日本女子大学図書館のHPを利用したことがありますか。  
1. 自宅から使っている 2. 学内から使っている 3. それ以外から使っている  
4. 使ったことはない (質問Iへお進みください)
- H. 質問Gで1~3と答えた方にお尋ねします。お使いになるサービスに○をつけてください。  
1. What's Newを見る 2. 利用案内を見る 3. 開館日程を見る 4. 蔵書を検索する  
5. オンラインジャーナル・学外サーバを利用する 6. その他
- I. 図書館の資料に満足していますか。満足でない場合は、具体的なご希望をお書きください。  
・和図書 (日本語・中国語・ハンゲルで書かれた図書)  
・洋図書 (英語・仏語・独語等で書かれた図書)  
・和雑誌  
・洋雑誌  
(上記それぞれについての選択肢)  
1. 自分が所属するキャンパスで満足 2. 目白・西生田を含めれば満足  
3. まあまあ満足 4. あまり満足ではない 5. 全く満足ではない  
6. 使わない (具体的なご希望があればお書きください)
- J. 今後どのような資料を充実すべきだと思いますか。  
1. 専門図書 2. 辞書・事典 3. 教養図書 4. 専門雑誌 5. 新聞 6. AV資料  
7. オンラインデータベース 8. その他 (具体的なご希望があればお書きください)
- K. 今後図書館に期待する主なサービスを選び番号に○をつけて内容についてお書きください。  
1. ホームページ機能の充実 (どんな機能を?)  
2. 相談・調査サービスの拡充 (具体的にご希望があれば)  
3. 開館時刻の変更 ( の期間 時から開館)  
4. 閉館時刻の変更 ( の期間 時まで開館)  
5. 設備・環境の改善 (どんなところを) 6. その他 (具体的に)
- L. ご自由にご意見等お書きください。(自由記入)

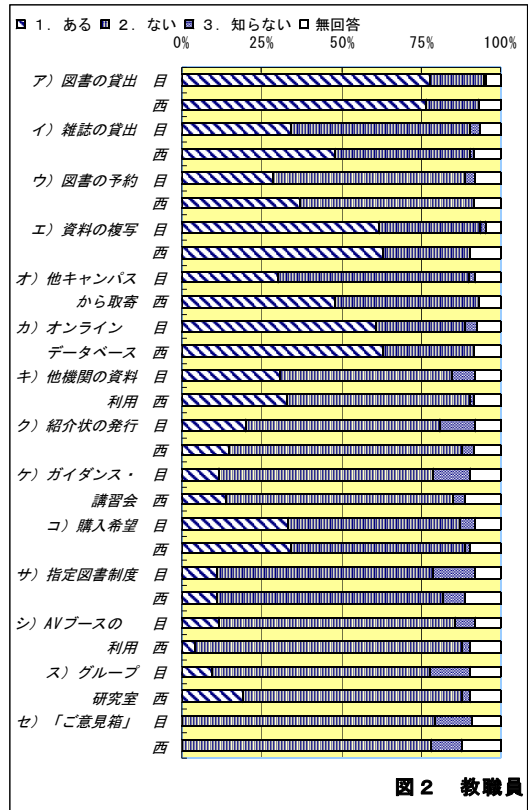
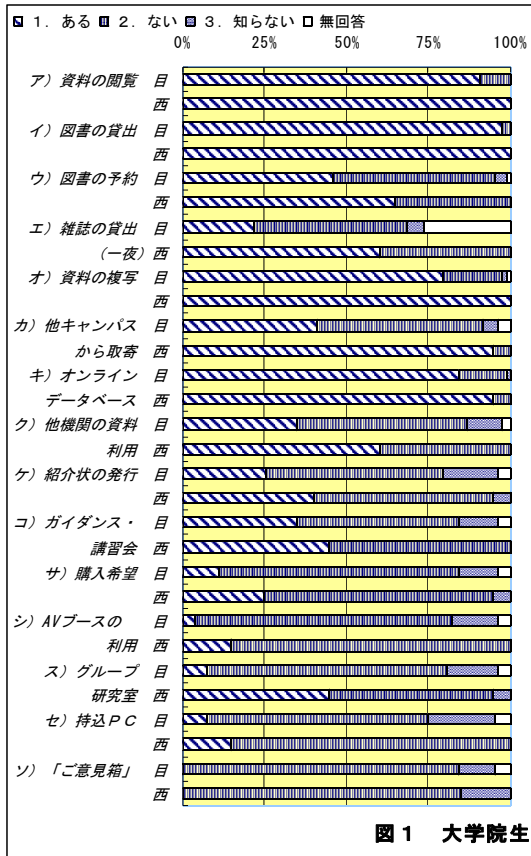
○「F. 次の図書館サービスを利用したことがありますか？」

図書館の各利用サービスがどれくらい利用あるいは認知されているかを調査した。(図1・2)。

設問： F. 次の図書館サービスを利用したことがありますか？
回答選択肢： 1. ある 2. ない 3. 知らなかった

大学院生向けの集計から、目白分では、図書館で提供しているサービスの認知度では学部学生よりも「3. 知らなかった」という比率が若干低い。各種のサービス利用経験に関しては、資料の閲覧、貸出、複写、オンラインデータベースの検索以外は「2. ない」が目立っている。設問「エ) 雑誌の貸出」の無回答数は、先に行った学部学生向けの用紙での回答を含む。設問にしていなかったためである。西生田分では、貸出・予約・取り寄せ等、閲覧カウンターで提供するサービスは、よく利用されていると言える。他機関の利用や紹介状の発行、購入希望等、レファレンスで提供しているサービスも「3. 知らなかった」という回答は少ない。また、オンラインデータベース検索は、95%の利用者が「1. ある」と回答しており、認知度が高いと言えよう。

教職員向けの集計から、目白分では図書館で提供しているサービスを「3. 知らなかった」とする回答は「サ) 指定図書制度」が17人、「ス) 共同研究室 (グループ研究室)・個人研究室の利用」



「ケ）ガイダンス・講習会の参加・実施申し込み」「セ）「ご意見箱」への投書」「ク）他大学への紹介状の発行」がほぼ同数。サービスの利用では「1. ある」が過半数なのは「ア）図書の貸出」「エ）資料の複写」「カ）オンラインデータベース検索」である。西生田分では、「3. 知らなかった」の回答は、「セ）ご意見箱」が7人、「サ）指定図書制度」が5人。「1. ある」の回答は多い順に「ア）図書の貸出」が約77%、「エ）図書・雑誌の複写」が約63%、「カ）オンラインデータベース検索」が約63%、「イ）雑誌の貸出」が約48%、「オ）他キャンパスからの取り寄せ」が約48%である。

○「I. 資料に対する満足度」

図書館の蔵書に対する満足度と、各資料ごとの具体的な要望を調査した。(図3・4)

設 問： I 図書館の資料に満足していますか？満足でない場合は、具体的にご希望をお書きください。

- ・和図書（日本語・中国語・ハンゲルで書かれた図書）
- ・洋図書（英語・仏語・独語等で書かれた図書）
- ・和雑誌
- ・洋雑誌

回答選択肢： 1. 自分が所属するキャンパスで満足  
 2. 目白・西生田を含めれば満足      3. まあまあ満足  
 4. あまり満足ではない      5. 全く満足ではない  
 6. 使わない（具体的な希望があればお書きください）

大学院生向け集計から、目白分では、選択肢1～3を合わせた満足している層が50%を超えたのは和図書のみである（83人中45人で54%）。また選択肢4・5を合わせた満足していない層は和図書では38

人(46%), 和雑誌では26人(31%)である。洋資料では洋図書, 洋雑誌とも「使わない」が50%を超えている(どちらも83人中43人で52%)。西生田分では, 洋資料(図書・雑誌)を「6. 使わない」とする回答が多く, 洋図書は40%, 洋雑誌は45%となっている。また, 「1. 所属キャンパスにある資料で満足」という回答はなかった。自由記述欄からは, 和図書に対する希望が多く, 「資料が少ない」「専門書の新刊が少ない」「専攻分野の資料が目白に多くある, 取り寄せが面倒だ」との意見が目立った。

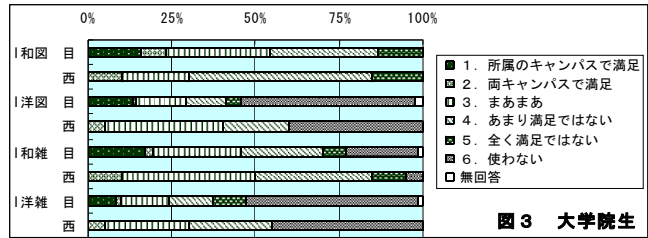


図3 大学生

教職員向け集計から, 目白分では, 選択肢1~3を合わせた満足している層が50%を超えたのは和図書と和雑誌である。洋図書, 洋雑誌とも「6. 使わない」が50%を超えている。自由記述欄では具体的な希望が多い。和図書では「本が古い」「日本近世文化, 文学の専門的資料が少ない」「福祉関係の資料が西生田に行ってしまった」「古い資料は満足, 新しいものは不足」「改訂版の購入で旧版を重複本として廃棄するのはいいだけない」「経済学関連の図書が少ない」。

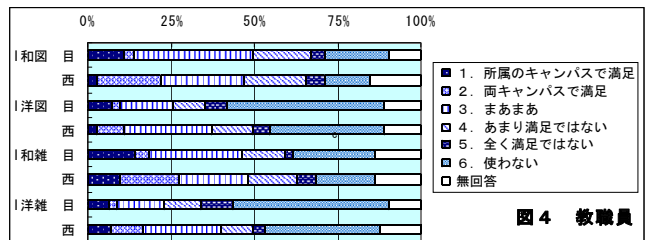


図4 教職員

「あらゆるジャンルにわたってほとんど無い」。和雑誌では「他大の紀要や研究成果に関する雑誌をふやしてほしい」「福祉関係の資料が西生田に行ってしまった」「だいたい必要なものはある」「使用頻度の調査をして余りに利用されないものは購入中止すべきだろう」。洋雑誌では「電子ジャーナルの充実」「蔵書が少ない」「オンラインが使えないものが多い」「Business Weekをとってほしい」「欠号がある場合は表示してほしい」「Tetrahedron, Tetrahedron Letters, Chemistry Letters等をとって下さい」。西生田分の集計では, 「未回答」が多かったが, 洋資料・和資料とも, 選択肢1~3を合わせた満足している層は50%以下である。また洋図書, 洋雑誌を「6. 使わない」とする回答は, いずれも34%である。自由記述欄で寄せられた意見には以下のものがあつた。和図書では「人類学, アフリカ関係の文献」「美術の本の充実」「辞書, 事典の類は満足」「新しい図書が少ない」「目白にあり西生田にない図書が多すぎる」「他学科所属図書の借り出しが面倒」「オンラインで取り寄せできれば不足分をカバーできる」。洋図書では「歴史学関係図書の充実」「伝説の文献(アフリカ地域研究)」。和雑誌では「社会科学系の他大紀要, 学会誌」「高専の紀要」「学会誌が不十分」「バックナンバーの購入」。洋雑誌では「伝説の学術誌(アフリカ地域研究)」「オンラインで改善されたのもっと増やしてほしい」。

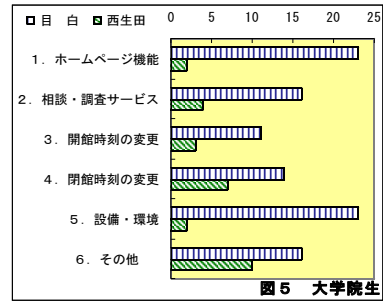
○「K. 今後図書館に期待する主なサービスを選び, 番号に○をつけて内容についてお書きください。」

図書館で提供しているサービスで, 利用者がもっとよくしてほしいサービスが何であるかを調査した。加えて自由記入による調査を行い, 具体的な提案を求めた。(図5・6)

設 問:	K. 今後, 図書館に期待する主なサービスを選び, 番号に○をつけて内容についてお書きください。
回答選択肢:	1. ホームページ機能の充実(どんな機能を?) 2. 相談・調査サービスの拡充(具体的にご希望があれば) 3. 開館時刻の変更(  の期間,  時から開館) 4. 閉館時刻の変更(  の期間,  時まで開館) 5. 設備・環境の改善(どんなところを)                      6. その他

大学院生向け集計より、目白分では「1. ホームページ機能の充実」と「5. 設備・環境の改善」への回答が目立つ。それぞれの項目に寄せられた主な回答を以下にあげる。

- |   |  |
|---|--|
| <p>1. ホームページ機能の充実<br/>「検索機能」「返却期限や予約の確認」<br/>「オンラインでの取り寄せや予約の手続き」<br/>「学外サーバを自宅からもできるように」</p> <p>2. 相談・調査サービスの拡充<br/>「時間の延長」</p> <p>3. 開館時刻の変更<br/>「開館時間の延長」</p> <p>4. 閉館時刻の変更<br/>「通常および休暇期間の閉館時刻の延長」</p> <p>5. 設備・環境の改善<br/>「トイレ」「空調」「図書館内の環境」<br/>「ロッカー」</p> | <p>6. その他<br/>「休日の利用」「コピーカード」「休暇中の開館」「雑誌フロアの延長」「倉庫や他キャンパスの資料の利用」</p> |
|---|--|



西生田分でも目白と同じような傾向が見られる。それぞれの項目で寄せられた主な回答をあげる。

- |   |   |
|---|---|
| <p>1. ホームページ機能の充実<br/>「オンラインジャーナル」</p> <p>2. 相談・調査サービスの拡充<br/>「スタッフの対応改善」</p> <p>3. 開館時刻の変更<br/>「通常9:00から」</p> <p>4. 閉館時刻の変更<br/>「通常20:00まで」「通常20:00～21:00まで」</p> | <p>5. 設備・環境の改善<br/>「目白のトイレ」「3階へのコピー機設置」</p> <p>6. その他<br/>「休暇中の開館」「オンラインでの取り寄せ」「オンラインでの利用状況確認」<br/>「OPAC検索」「スタッフ」「ご意見箱」</p> |
|---|---|

教職員向けの集計より、目白分では、全項目に回答が寄せられている。それぞれの項目に寄せられた主な回答を以下にあげる。

- |   |  |
|---|--|
| <p>1. ホームページ機能の充実<br/>「検索機能」「資料の予約、自分の利用状況」「資料のキャンパス内での所在地の表示（どの研究室にあるか）」「データベース」「オンラインジャーナル」「図書・雑誌の内容、目次の検索」</p> <p>2. 相談・調査サービスの拡充<br/>「年中無休、時間延長」「自宅から紹介状の作成依頼」「テーマ別書籍の検索」</p> <p>3. 開館時刻の変更<br/>「開館時間の延長」</p> | <p>4. 閉館時刻の変更<br/>「通常および休暇期間の閉館時刻の延長」</p> <p>5. 設備・環境の改善<br/>「トイレ」「空調」「古い」「暗い」「書架に圧迫される」「エレベーターの設置」</p> <p>6. その他<br/>「地域開放」「資料の充実」「休暇中の開館」「CDの貸出」「サービスの改善」<br/>「他の学生サービスとの連携」「人員態勢アウトソーシング」</p> |
|---|--|

西生田分での傾向としては「1. ホームページ機能」「5. 設備・環境」への回答が多めとなっている。それぞれの項目に寄せられた回答を以下にあげる。

- |   |  |
|---|--|
| <p>1. ホームページ機能の充実<br/>「図書の予約」「目白・西生田資料取り寄せ」「新規購入(予定)リストの公開」「検索した図書の関連図書の紹介」</p> | <p>2. 相談・調査サービスの拡充<br/>「利用時間延長」</p> <p>3. 開館時刻の変更<br/>「(休暇期間に) 利用しにくい」</p> |
|---|--|



4. 閉館時刻の変更

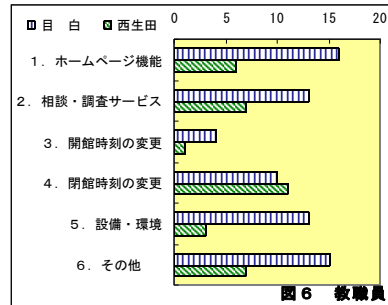
(通常)「19:00すぎ」「20:00まで」「21:00まで」(通年)「20:00か21:00まで」「21:00まで」(休暇中)「18:00まで」「休暇期間利用しにくい」「学生ニーズに対応してほしい」

5. 設備・環境の改善

「ノートパソコンの持ち込み」「常設パソコン」「インターネット接続可能なブース(長期個人専用)の設置」

6. その他

「夏季休暇期間の月～金に館員が1名でもいるとよい(3時間位で可)」「蔵書の増強」



「推薦図書購入予定・決定の公開」「取り寄せた文献を学生が借り出せないシステムの変更」「館員は実力をつけてほしい」「職員の対応の向上」

○「L. ご自由にご意見等お書きください」

A～Kの設問以外に意見や要望を記入できる項目を設けたものである。(図7～10)

設問:	L. ご自由にご意見等お書きください
回答選択肢:	自由記入

大学院生向けの集計から、回答の内容ごとにまとめた。主なものをあげておく。目白分では以下の通り。なお図ではそれぞれのキャンパスごとに回答数の多い順に項目を並べている。

【蔵書構成・資料充実】

「文庫本など専門図書でない一般図書もおいてほしい」「ネットでダウンロードできる論文が少なすぎる」「論文を取寄せることが多く、時間・コストがもったいない」「古い本が多いので新しい本を増やしてほしい」など。

【図書館利用全般】

「使いやすくしてほしい」「館内で利用した図書を館員が戻してほしい」

【開館期間・時間】

「1階の閉室時間が他の階より早いのが不便である」「春休み・夏休みの勉強に利用したいので、開館時間を延長してもらいたい」「春休みの開館日が少なすぎる。院生は論文の中間発表などあるので、開館時間は短くても毎日開館してほしい」など。

【貸出・返却・予約】

「貸出延長をWeb上でできるようにしてほしい」「10冊まで借りられるようにしてほしい」「貸出カードをなくしてほしい。紛失してしまうので」という意見が寄せられた。

【1階入室チェック】

「1階入口での持ち物チェック、持込本チェッ

ク、カウンターを押すなど、同じ図書館内なのでやめて欲しい」「面倒」という意見。「最初から疑ってかかられているようでこわい」「なぜこれほど嚴重なチェックが必要なのかかわからないので説明してほしい」など。

【館員】

「図書館の人がたまに怖い」「参考係の態度が悪い」など。

【書架の状況】

「書架の間隔を広くし、明るくしてほしい」「雑誌・図書が見つからないので、配架場所に必ずあるようにしてほしい」など。

【入館時ロッカー利用】

「ロッカーを広くしてほしい」「透明な袋に入れ替えるのが面倒」「自分のバックを持って入りたい」など。

【その他】

「英文の場合『英専協』という他大学との提携があり他大学の授業を採れば、他大学の図書館へはフリーアクセスだが、授業をとらないと逐一、紹介状があるので、不便。英専協加盟校間は紹介状を要しないようなシステムにしてほしい」「(メモ用の)鉛筆が短い」など。

また、西生田分の集計では以下の回答が寄せられている。

【貸出・返却・予約】

「貸出期間・冊数の拡充」「オンラインでの取り寄せ」「オンラインでの利用状況確認」「オンラインでの延長手続き」など。

【その他】

「利用しやすい場とするために、アンケートが定期的にあるとよい」「目白地区研究室図書の利用」など。

【開館期間・時間】

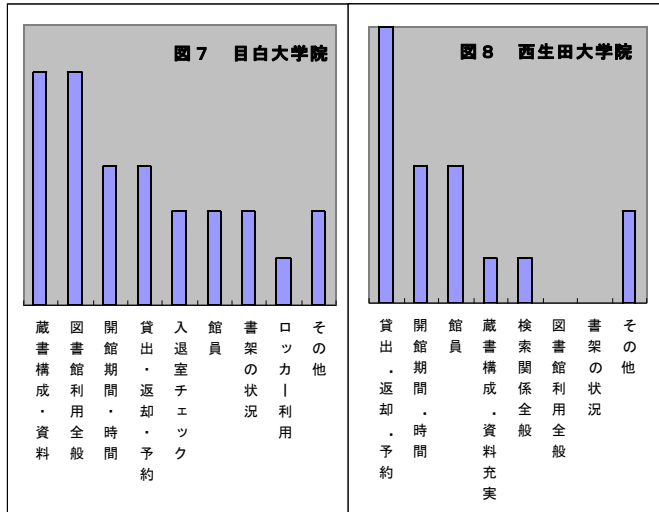
「長期休暇中の開館日を増やしてほしい」「夏・冬休暇中の閉館が多すぎる」など。

【館員】

「大半の職員は親切に対応してくれるが、注意の仕方が威圧的なことがあった」「無愛想。不親切。人によるが・・・」「受付の対応をていねいにしてほしい」など。

【蔵書構成・資料充実】

「学外から取り寄せることが多かったのでさらなる資料の充実を望む」「検索結果プリントアウトを簡便に」「オンライン有料データベースが利用しにくい」など。



教職員向けの集計からは、目白分では次のような意見が寄せられている。

【蔵書構成・資料充実】

「古い図書が多いので新しい本を入れて欲しい」「もっと授業（特に大学院の）に直接的な関わりを持った図書の購入をして欲しい」「大学院授業の参考文献リストを図書館が入手し購入する」「大学院生に積極的に希望図書の購入希望を出させる」など。

「オンラインジャーナルの充実」「何がオンラインで入手できるかわかりにくい」「すでに購入しているオンラインジャーナルの使い勝手を良くして欲しい」「紙媒体はいらない」。また具体的なタイトルとして「Nature」、「Science」、「PNAS」などが挙げられた。

【図書館利用全般】

「学生証と図書カードはひとつに」「学生の学習支援施設としての充実(PC利用, インターネット環境など)」「生涯学習センター受講生の利用規則(有料閲覧)の見直し」

【建物全般】

「その他の図書館に比べると暗いイメージがあ

る。楽しくない、居心地が悪い」「空調が適当でない時、場所がある」

【参考業務】

「文献取寄せは閉館期間中でも教職員の複写依頼は可能か」「文献の取寄せ依頼をオンラインで」「他大学からの取寄せや他大学への紹介をどこで受け付けているかわからない」「ガイダンス・講習会に是非参加したい」

【図書館事務処理全般】

「業務の効率化・他部署の変革への対応、請求書・支払票の控の複写」「個研資料、購入書籍にシールを貼付するのは無駄、図書館を通さず、消耗品として直接経理課で処理すべき、科研費資料も消耗品扱いにすべき」「図書の購入・購入依頼を複写式の紙で行っているが電子処理(依頼)出来るようにしてほしい」

【開館期間・時間】

「2・3月の開館日増加、時間をもっとフレキシブルに、朝早くも可、夕方も7、8時まで可にしてほしい」「米国の大学図書館の例をあげ、

図書館の無人開館の可能性を望む」

【コピー機】

「雑誌コーナーのコピー機で混雑が多い」  
「コピーカードは生協と共通にしてほしい」

【図書館組織】

「図書館員は職員組織と同じ並びなのに、何か独立していないか」など。

【入館時ロッカー利用】

「入館時に荷物を別袋に入れるのが面倒。そのために利用したくない学生も多数いるはず」「透明な入れ物なら自分の物でも使用できるとうれしい、肩からかけられるタイプが欲しい」

【館員】

「館員の愛想があまり良くない」「親切な対応に感謝する」

【貸出・返却・予約】

「教員への貸出期間延長、冊数増、長期特別貸出の更新制度の廃止」「教員本人以外の研究スタッフによる代行手続きを認めて欲しい」  
また西生田分の集計では以下の意見が寄せられている。

【蔵書構成・資料充実】

「コンピュータ関連の蔵書が少ない。言語系のものは入れてほしい」「学生の勉強のために入れてほしい本が何冊かある」「雑誌のオンライン拡充を。図書は取り寄せでカバー可能」「洋雑誌、和雑誌とも充実している」「非常勤で行く度に図書館を利用し、洋雑誌（特にDer Spiegel）を閲覧している」

【館員について】

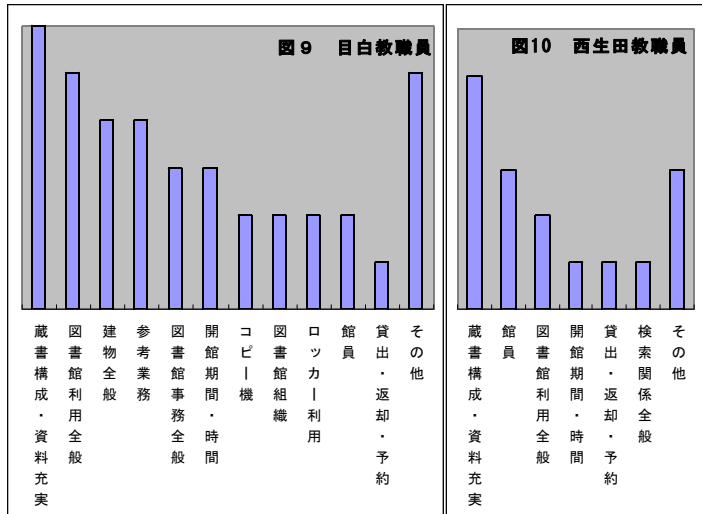
「館員の対応が良くない。“できない”が多すぎる」「職員の対応が親切だった」「大変親切に対応してもらい感謝している」

【図書館利用全般】

「西生田図書館は国勢調査を開架で見れるので気に入っている。開架が多い図書館は便利」

【その他】

「学生が寄り付きたくなるような図書館にして欲しい」「研究を支援するという意欲を見せてほしい」「図書館だよりの職員全員配付は不要」「新入生の図書館ガイダンス」「今のままで不満はない」



「どこに保管してあるかわかりにくい（過去の雑誌など）」

【開館期間・時間】

「開館期間、時間が少なすぎる。授業終了後調べものをする時間がない」

【貸出・返却・予約】

「ホームページ上で予約・取り寄せができると便利だと思う」

【検索関係全般】

「topicで検索しにくい（外国雑誌など）」

【その他】

「最近頑張っているので頼もしい」「学生が利用しやすいようにしてあげてほしい」「今後はホームページを利用するつもり」

「大学院生向けアンケート」「教職員向けアンケート」それぞれの集計の全容は、図書館ホームページ上に掲載しているので、ぜひごらんいただきたい。今回の報告はその一部を抜粋したものである。

(館員・閲覧係 鈴木学)

## 西生田図書館玄関ホール展示について



西生田図書館では、4月4日より玄関ホールにて「カンタベリー物語」エルズミア写本（ファクシミリ版）の展示を行った。オリジナルはチョーサーの死後まもない15世紀初めに書かれた写本であり、直筆原稿が現存しないため信頼性の高いテキストとされている。「カンタベリー物語」はカンタベリー大聖堂へ向かう29名の巡礼たちが道中に語る物語であるが、この写本の各パートの冒頭には語り手となる巡礼のイラストが描かれ、本文も色鮮やかな植物模様や金箔等で装飾されている。今回は「最新流行のスタイルで馬に乗っている」（西脇順三郎訳）「赦罪状売り」のイラスト入り頁を展示した。

今後は今回のような書誌的・工芸的意義を持つ資料だけでなく、季節に合わせた資料の紹介や、大学、地域など身近なテーマに関わる図書の展示を行っていく予定である。入館ゲートをくぐる前の小さな展示をお楽しみいただければ幸いである。



玄関ホール展示全景



カンタベリー物語展示風景

（館員・西生田図書館課長 濱口都紀）



## ご存知ですか？ブラウジングコーナー

図書館のブラウジングコーナー、ご利用になったことはありますか？目白は入館ゲートにはいる手前、西生田は入館ゲートをはいってすぐの場所にあります。「ブラウジング」とは「本の拾い読み」という意味です。時間の合間に軽く何か読みたいときにご利用ください。

新聞（当日の朝刊と前日の夕刊）や情報誌（ぴあ、NHKきょうの料理、キネマ旬報など他にもいろいろ）が置いてあります。英語・中国語・韓国語の新聞もあります。椅子は図書館にある通常のものより寛ぎモードです。まだの方はぜひ、お試しあれ。

**編集後記** 新海邦治前館長よりご寄贈の新刊、岩村麻子さんの紹介文にいざなわれ多くの利用が待たれる。平成18年度実施の図書館利用者アンケートについて、前号の学部学生に続き、大学院生・教職員の結果抜粋を掲載した。現在、改善策の実施に向けて検討を行っており、次号には改善に関する記事を掲載予定である。巻頭のカットは目白で図書受入業務に従事している三好陽子さんの画、和装本に囲まれた愛猫。図書館だよりは年3回発行、館内に備え自由にお取りいただいている他、他大学図書館など学外約100機関、図書館友の会会員、学内では専任教員・専任職員に配付、3月発行号は新入生オリエンテーション時の図書館配付資料の一つにもしている（No.96からは図書館HP上で公開中）。今号より専任職員については各部署1部の配付に変更する。図書館だより編集委員：中曽根緑，大沼真美，鈴木学，中澤恵子（中曽根）